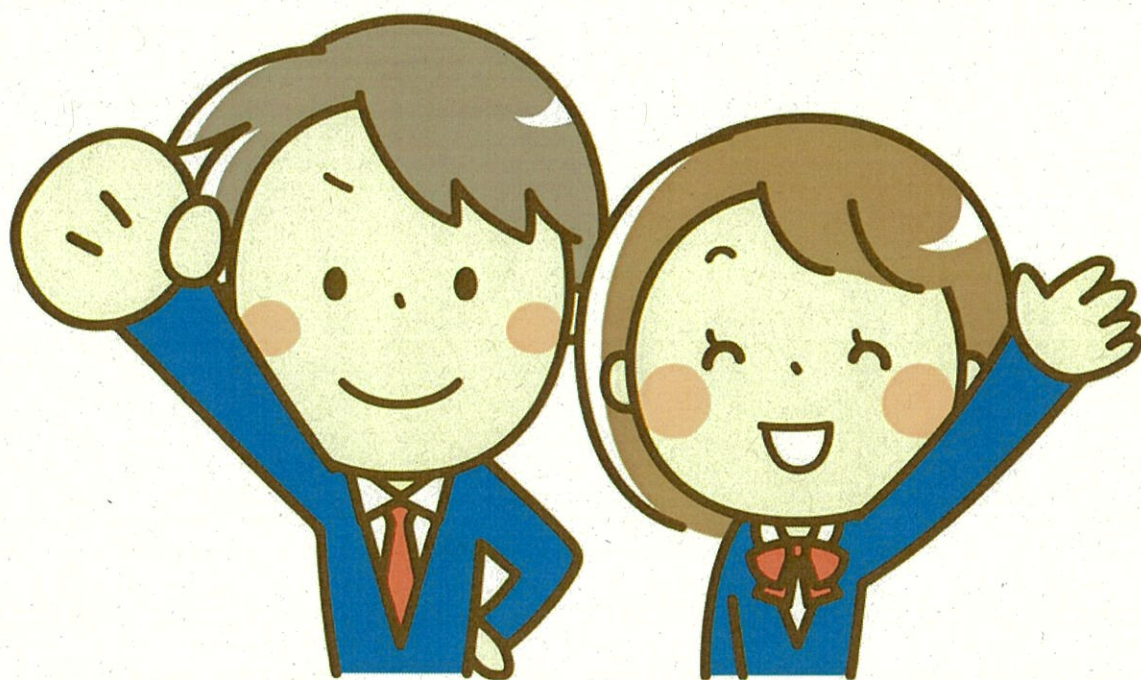


令和6年度

地域づくり活動応事業援

実績報告集

(高校生枠・チャレンジ事業枠)



兵庫県西播磨県民局

# 目

# 次

(事業名)	(実施団体)	
1 生物多様性龍高プラン 地域の自然と生きものの保全活動	兵庫県立龍野高等学校	・・・1頁
2 太子ふるさと育成事業	兵庫県立太子高等学校	・・・7頁
3 相高地域貢献・魅力発信事業	兵庫県立相生高等学校	・・・9頁
4 赤穂高校ふれあい活動	兵庫県立赤穂高等学校	・・・11頁
5 上郡町コミュニティデザインプロジェクト	兵庫県立上郡高等学校	・・・14頁
6 さようみらい活性化プロジェクト	兵庫県立佐用高等学校家政科	・・・17頁
7 山高が地域を元気にするⅢ	兵庫県立山崎高等学校	・・・20頁
8 伊和高生 発酵のふるさとPR事業	兵庫県立伊和高等学校	・・・22頁
9 ちくさ地域力UPプロジェクト	兵庫県立千種高等学校	・・・24頁
10 地域の自然と文化の魅力の再発見と脱炭素社会推進事業	兵庫県立龍野北高等学校	・・・26頁
11 高校生の店 龍北工房	高校生の店 龍北工房 【兵庫県立龍野北高等学校（定時制）】	・・・29頁
12 地域をつなぐ相産定時制	兵庫県立相生産業高等学校（定時制）	・・・31頁
13 未来の環境へ繋ぐ「西播磨のいきもの大調査」	兵庫県立大学附属高等学校 自然科学部	・・・33頁



(別紙4)

## 事業実施報告書

事業名：生物多様性龍高プラン 地域の自然と生きものの保全活動

団体名：< 兵庫県立龍野高等学校 >

所在：兵庫県たつの市龍野町日山 554

代表：駒田 勝

目的	<p>〔地域の現状〕</p> <p>西播磨だけでなく国内全域で生物多様性が急激に消失している。兵庫県の場合シカやイノシシの急激な増加にともなう林床の植生の食害による生物多様性の低下。ため池では水田の減少に伴う管理放棄およびアメリカザリガニなどの外来生物の侵入による水生・湿生植物群落が消滅している。</p> <p>また、山や川で自然遊びする子どもたちがいなくなっている。</p> <p>〔地域の課題〕</p> <p>急速に消失する生物多様性を守るために、地域の学校で地域の自然や生きものを保全する環境教育が必要となっている。しかし参考となる実践報告が乏しい。</p> <p>子どもたちが自然や生きものにふれあい自然を愛する心を育む機会が失われており、将来地域の自然保護活動にとりくむ人材が枯渇することが予想されている。</p> <p>空き家や独居老人宅が増加し、景観上の問題だけでなく、防犯上の問題や孤独死などのリスクが高まっている。</p> <p>〔解決方法〕</p> <p>龍野高校自然科学部生物班・授業課題研究生物多様性班が、地域の自然や生きものをテーマとした研究活動等をおこない、児童・生徒による環境保全活動のモデル事業となれるように尽力する。</p> <p>地域の管理放棄地の緑化に適した植物の選定を目的として、校内や太子町総合公園内の荒れ地を活用して、少雨の瀬戸内海性気候に適応しやすい草花を探す。また、シカの食害に耐性のある植物を探す。成果については研究発表会などで公開する。</p>
事業内容	<p>高校生が主体となった生物多様性の保全活動</p> <p>まもる活動 地域の希少植物群落の保全活動：サギソウ・ヒシモドキ・ササユリ等 生息域外保全：ヒシモドキ・フジバカマ・オチフジ・オキナグサ等</p> <p>しらべる活動 地域の希少植物生育地の現状 ヒシモドキ・サギソウ・オニバス等 増殖方法の研究：ラン科植物の無菌培養技術の開発 対策方法の研究：自生地で簡易防獣柵の効果の検証 シカの食害に強い、植物を調べる</p> <p>つたえる活動 研究発表会 全国ユース環境保全活動発表会近畿大会など 科学イベント 科学の祭典・科学の屋台村 わくわく実験教室 地域行事 たつの市民まつり</p> <p>つながる活動 行政・地域住民・他の自然保護団体・博物館や植物園の専門家</p>
地域	たつの市を中心とした西播磨

第10回全国ユース環境活動発表大会 近畿地方大会  
「先生がえらぶ特別賞」(4位相当)

今年度より龍野高校で科学イベント「わくわく実験教室」を開催。科学の祭典などの科学イベントが姫路市を中心に開催されているので、小規模ではあるが、地域の小学生を対象として実施。

生物班だけでなく、物理班や化学班も参加し、生物分野だけでなく、物理・化学分野の実験を小・中学生に楽しんでもらった。

今年度より人と自然の博物館と連携した、「地域連携オープンセミナー」を開催。人博セミナーが三田にある人と自然の博物館を中心に開催されているが、遠方である。自然科学部の生徒だけでなく、地域の住民のかたにも聴講していただいた。とりあえず、7年度も開催をしたいと考えている。

野生絶滅したと考えられていた、千種川下流域産のオキナグサが有年中学校校内に残存していることがわかった。今後、有年中学校と連携して千種川産オキナグサの系統保全に取り組みたいと考えている。

簡易防獣柵は1組あたり350円で製作できる。杭でしっかりと固定できる地盤であれば、絶滅危惧植物のシカ食害対策に活用できることがわかった。

空き家などの庭の景観を改善するための植物として、各種の植栽し、乾燥やシカの食害耐性について調べたところ、ニチニチソウ・マリーゴールド・キャットミント(カラミンサ)は一切食害を受けることなく、長期間にわたり開花することがわかった。開花期間は短い、クリスマスローズ・シャクヤク・ヒガンバナ・スイセンなども有効である。インターネットなどでは食害されないはずの有毒植物であるジギタリスは食害された。シカの嗜好性には地域性や個体差がある可能性がある。

その他、各種の絶滅危惧種の保全や啓発活動は従来通り実施している。

事業の  
効果

	月日	場 所	事 業 内 容	参加者数	生徒数
6月	6/2	福泊海岸	西播自然科学部研修会	50人	10人
	6/8	県大理学部	ササユリの保全活動		3人
	6/17	地場産ビル	ひょうご環境未来会議 姫路	50人程度	10人
7月	7/28	太子町総合公園	ヒシモドキ・フジバカマなどの生息域外保全		10人
	7/22	姫路科学館	桜山公園まつり科学の屋台村	多数	13人
	7/31	龍野高校	小学生のためのわくわく実験教室	160人程度	15人
8月	8/17・18	県立大工学部	青少年のための科学の祭典	多数	10人
9月	9/8	たつの市	サギソウ自生地的人工交配 ススキやササの刈り取り		5人

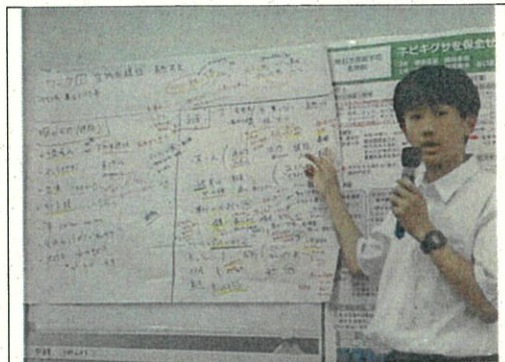
10 月	10月	姫路水族館・手 柄山温室植物 園	マミズクラゲの展示	不明	
	10/6 10/17	龍野高校 龍野高校	中学生からできる課題研究 ひとはく地域連携セミナー	3人 20人程度	8人 8人
11 月	11/3	たつの市	たつの市民祭り（環境会議ポ スター展示）	不明	
	11/11 11/12 11/17	ポートアイラ ンド たつの市	高等学校総合文化祭自然科学部 門 研究発表会 サギソウ野外調査	不明 3人	8人 5人
12 月	12/1	大阪駅前	全国ユース環境活動発表会 近 畿地区大会	70人程度	2人
	12/14	兵庫県立工業 試験場	ひょうごユースecoフォーラ ム	不明	8人
	12/21	大和大学	サイエンスキャッスル 大阪・関西大会	不明	6人
1 月	1/26	ポートアイラ ンド	サイエンスフェア IN 兵庫	不明	5人
2 月	2/1	龍野高校	生徒研究発表会	不明	15人
	2/11	人と自然の博 物館	共生のひろば 研究発表会	不明	8人
	3月予定	たつの市	サギソウ自生地の草刈り		
	3月予定	たつの市	オオツルコウジ自生地の外来植 物の駆除		



6/2 福泊人工海浜植生調査



6/8 ササユリの保全(簡易)防獣柵



6/17 ひょうご環境未来会議姫路



7/22 科学の屋台村



7/28 ヒシモドキの生息域外保全



8/17 青少年のための科学の祭典



9/8 サギソウ自生地の保全活動



10月 マミズクラゲを水族館展示



10/6 中学生にもできる課題研究



10/19 ひとはく地域連携セミナー



11/10 県高等学校総合文化祭



11/17 サギソウの保全活動



12/1 全国ユース環境活動  
発表大会 近畿地方大会 入賞



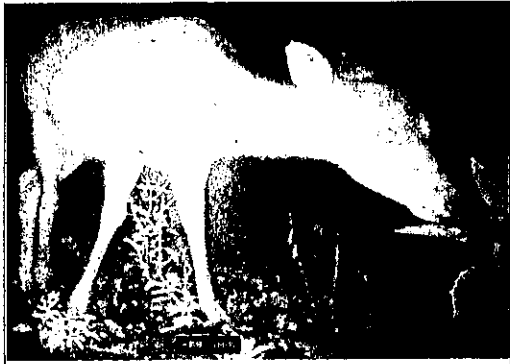
12/14 ひょうごユースecoフォーラム



12/21 サイエンスキャッスル 2024  
大阪関西大会



12/22 はりまユース研究発表交流会



シカの不嗜好植物の調査  
写真 エンゼルトランペット（有毒植物）に触れるが食べることはない。



簡易防獣柵の効果の検証  
意識して柵をたおし、食害しない。

<p style="writing-mode: vertical-rl;">協働の相手方</p>	<p>絶滅危惧種自生地の土地管理者 野外作業の許可など 県立人と自然の博物館・姫路市立手柄山温室植物園 講師派遣・指導助言など たつの市環境課 自然環境会議など 太子町まちづくり課 総合公園の利用許可など</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">今後の展望</p>	<p>従来の自生地の保全活動・生息域外保全、増殖技術の開発、絶滅危惧種の環境教育教材化、子どもたちに自然や生きもの興味関心を育むための実験観察イベント、地域住民への生物多様性に関する啓発活動は継続する。</p> <p>「生物多様性ひょうご戦略」改訂にむけての、調査研究活動 「ひょうご花緑創造プラン」改訂にむけての、調査研究活動 特に高温・乾燥・貧栄養・シカの食害に強い、ガーデニングに活用できる植物の選定と試作 「水のさと魅力発信事業」の一環として兵庫県 RD A ランクのヒシモドキの里親制度を計画する。</p>

詳しい活動内容や研究成果は龍野高校 HP の「自然科学部」や「生物多様性龍高プラン」をご覧ください。



龍高自然科学部



生物多様性龍高プラン



環境省動画 100 選



総合公園の植物図鑑



生物班研究成果



(別紙4)

## 事業実施報告書

事業名： 太子ふるさと育成事業

団体名： < 兵庫県立太子高等学校 >

所在： 兵庫県揖保郡太子町糸井 19

代表： 兵庫県立太子高等学校長

古河 浩和

目的	地域の住民や団体が協力して、地域の課題解決又は地域づくりに継続的に取り組み、地域の活性化及び地域の人材育成に資する活動を行う。				
事業内容	地域の方々と協働して、様々な年代、様々な属性の人々を繋げるイベントを実施、または、補助をすることでまちの活性化に貢献する。 ①TAISHI FES 2024 ②地域貢献交流活動 浴衣の着付けを学び、海外の方々や地域の方々に体験してもらう。 ③太子高校着付け部				
地域	西播磨全域				
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"><li>・コミュニケーションや協力の重要性を体験的に学ぶ機会が提供される。</li><li>・地域の文化や伝統に関する知識が共有され、尊重される。</li><li>・地域の様々な団体やコミュニティが協力してイベントを企画・運営することで、連携が深まる。</li><li>・地域の活性化や交流イベントの成功により、地域全体のイメージアップや活気づく様子が伝わり、外部からの注目や訪問が増える。</li></ul>				
事業経過		場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
	5/5	兵庫県立こどもの館	こどもフェスティバル 放送部とJコーラス部とダンス部によるステージ運営・発表、調理手芸部による出店、ボランティアメンバーによるブース補助	約 80 名	2 名
	7/21	太子町庁舎	日本語教室ゆかた交流会 日本語教室に通う太子町在住の外国人と浴衣を着て交流	約 20 名	2 名
	8/21	斑鳩寺	太子夏会式 Jコーラス部とダンス部によるステージ発表、ボランティアメンバーによる運営補助	約 70 名	3 名
	11/16	太子高校	太子FES 吹奏楽部とダンス部とJコーラス部によるステージ発表、調理手芸部と総合実践による企画販売、ボランティアメンバーによる企画、準備、運営	約 180 名	3 名
	2/9 (予定)	あすかホール	地域ふれあいコンサート Jコーラス部によるステージ発表、調理手芸部による企画販売	約 50 名	3 名

写真 5/5 こどもフェスティバル



写真 7/21 ゆかた交流会



写真 8/21 太子夏会式



写真 11/16 太子 FES



※掲載写真には、それぞれ日付と内容を付記してください。

協働の相手方	<p>①太子町 ②太子町教育委員会 ③兵庫県立こどもの館                  ④太子日本語教室ボランティア ⑤近隣自治会                  ⑥株式会社ナナイロキモノ ⑦街の便利屋 美助っ人                  ⑧社会医療法人三栄会ツカザキ病院 ⑨ブラジル音楽サンバ MATRIX                  ⑩太子高校同窓会太翔会 ⑪コスプレイヤー (きいる、望米もちこ、だいず)                  ⑫社会福祉法人あすか会 ⑬相生高校 ALT、龍野高校 ALT                  ⑭太子高校 PTA ⑮太子高校食堂 ⑯一般社団法人はりまキッチンカー協会                  ※⑥～⑯は、太子 FES 関係</p>
今後の展望	<p>① 持続可能な運営体制の確立                  ボランティアやスタッフの育成・維持、資金調達、イベントの運営などを含む持続可能な運営体制を確立する。                  ※太子 FES は、今年度初めての実施で、一部署で運営してみて、本校教員が来年度から減ることを考慮すると継続実施が相当難しいと考えられる。</p> <p>② 地域ネットワークの強化                  地元の企業や団体との連携を深め、資金提供や協力体制の構築を図る。</p> <p>③ マーケティングと広報の強化                  イベントの広報活動を強化し、より多くの人々に参加を呼びかけるための戦略を練る。</p>

(別紙4)

## 事業実施報告書

事業名： 相高地域貢献・魅力発信事業

団体名： < 県立相生高等学校 >

所在：相生市山手1丁目 722-10

代表：校長 小田 昌史

目的	本校のある相生市は、かつての花形であった造船業の栄えた港町である。造船業の後退により人口は激減し、現在も人口減少の歯止めをかけるために、様々な事業を展開している。歴史に目を向けると、播磨第二の大荘園「矢野荘」があり、荘園がまるまるそのまま地方公共団体になった数少ない例の一つである。京都の有名な東寺の所有した荘園でもあり、荘園研究の一級資料である「東寺百合文書」が残存し、史料も豊富に残っている。そのため、相生の歴史を学ぶことにより、ふるさとの魅力を再発見し、ふるさと相生の活性化につなげていきたい。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の行事に積極的に参加し、地域住民とのふれあいや交流等、地域貢献を図る。</li> <li>・相生歴史巡検を実施し、ふるさとの歴史を学び、魅力を再発見することにより、ふるさと相生の歴史的魅力をクリアファイルや学校HPでの歴史巡検資料の作成により、市民やふるさと相生の活性化につなげていく。</li> <li>・学校行事（文化祭、体育大会、公開授業など）を地域に情報発信することで、開かれた学校、信頼される学校づくりを推進し、学校文化の広がりや地域の教育文化の拠点としての役割を担う協働実践を図る。</li> </ul>				
地域	相生市				
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の挨拶運動が、相生市の表彰を受けたり、相生のミニコミ誌に掲載されたり、地道に地元と連携して活動が続けられている。これを継続することにより、地元で愛される学校になることが期待できる。</li> <li>・相生市教育委員会（相生市立歴史民俗資料館）との連携で、ふるさと相生の歴史を多面的に学ぶことができる。ふるさと相生の魅力を探求し、クリアファイルや学校HPの歴史巡検資料を作成して地域の人々に配布し、地域とのつながりの深化が期待できる。継続的に活動を実施し、相生市の観光資源へとつなげる懸け橋としていきたい。</li> </ul>				
事業経過		場 所	事 業 内 容	参加者数	スタッフ数
	毎月1回	相生駅前 (南北ローラー)	さわやか挨拶運動 クリーン作戦	380名	8名
	5/29 11/13 1/22	学校から相生 駅周辺	通学路清掃	120名	11名
	10/27	相生市内	歴史巡検	11名	3名
	10/29～ 2/9	学校内	歴史巡検 HP 資料作成 クリアファイル原案作成	12名	3名



10/25 さわやか挨拶運動



11/13 通学路清掃



10/27 歴史巡検



10/27 歴史巡検

※掲載写真には、それぞれ日付と内容を付記してください。

協働の相手方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相生市教育委員会（相生市立歴史民俗資料館）</li> <li>・山手1丁目自治会</li> </ul>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駅前（南北）で実施する「さわやか挨拶運動」や「通学路清掃」を実施・継続することで、自治会や地元とも連携を深め、地域に親しまれ愛される学校になっていく。</li> <li>・ふるさと相生の歴史的魅力を再発見するために、相生歴史巡検のクリアファイルを作製して挨拶運動で配布を行う。また、学校HPの歴史巡検資料で魅力をアピールし、ふるさと相生の魅力発信に貢献する。</li> </ul>

(別紙4)

## 事業実施報告書

事業名： 赤穂高校ふれあい活動

団体名： < 兵庫県立赤穂高等学校 >

所在：赤穂市海浜町139番地

代表：校長 大角 謙二

目的	地域の異年齢の人とのふれあい活動を増やし地域について理解し愛着を持てる活動を行う。赤穂市についての再認識、自分たちが普段何気なく見過ごしていたことを見つけ、高校生活を楽しむ。赤穂市の特産物や伝統料理について学ぶ。次の子育て世代としての児童観の育成を図る。				
事業内容	<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 赤穂の特産物を利用した新たなお菓子の製品化を目指し、お菓子作りを行った。</li><li>(2) しおや食堂・こども食堂パズルでお菓子製作のボランティア活動を行った。</li><li>(3) 教科「保育基礎」と「生活と福祉」選択生徒が製作した布絵本・縫いぐるみなどをあけぼの幼稚園と御崎保育所にプレゼントした。</li><li>(4) 赤穂市保健センター・いずみ会の方に1人暮らしの料理について学んだ。</li><li>(5) 赤穂東児童館にて夏祭りのボランティアを行った。</li><li>(6) ドレスを製作し、地域の催しでファッションショーを行った。</li><li>(7) 兵庫県丹波黒豆振興協議会より提供いただいた黒豆を使ったお菓子を開発し、こども食堂に提供した。</li></ol>				
地域	赤穂市				
事業の効果	赤穂市保健センターの方を通じ、ボランティア団体いずみ会の方との交流を行い、異年齢の方との交流することにより、高校生に求められていることがわかり、コミュニケーション能力が高まる。こども食堂でのボランティアを通じてボランティア活動について学べ、地域のこどもやボランティア活動されている人とかかわることにより、成長できる。地域の農家の方と交流することにより、赤穂について深く知ることができる。ファッションショーを地域で行うことができ、地域の方に喜んでいただけ、自己肯定感が向上した。				
事業経過		場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
	通年	赤穂高校 こども食堂	こども食堂お菓子作り、配布	70人	10人
	6月	赤穂高校	文化祭にていちごのタルトなど販売・ファッションショー	参加者多数	20人
	8月	赤穂東児童館 あけぼの幼稚園	夏祭りボランティア 幼稚園ボランティア	20人 30人	5人 16人
	9月	今井壮	ファッションショー	参加者多数	5人

7～12月	赤穂高校	保育所・幼稚園へのプレゼント作り	対象者多数	49人
11月	赤穂高校	赤穂市保健センターより、いずみ会の方を講師に招き、一人暮らしのための料理講習会を行った。	25人	4人
1月	御崎保育所	赤穂東児童館に絵本、縫いぐるみのプレゼント	対象者多数	4人
1～3月	赤穂高校 こども食堂	黒豆のお菓子の開発 黒豆のお菓子をこども食堂に提供	対象者多数	13人



8月5日 赤穂東児童館夏祭り



6月21日文化祭でのファッションショー



11月6日いずみ会の方との交流



1月29日 御崎保育所での交流

協働の相手	塩屋こども食堂      こども食堂パズル あけぼの幼稚園      赤穂東児童館 赤穂市保健センター
今後の展望	<p>今後も、市内の保育所・幼稚園との交流を定期的に行っていき、子どもたちや保護者の方とのかかわりを通して、生徒たちが地域貢献や、地域の方に学ぶ姿勢をもてるようにしていきたい。</p> <p>今年度も、赤穂義士祭にてお菓子の販売を行うことができた。さらに赤穂の特産品を使用したお菓子の製作を調理部員全員が作れるように試作を重ねたい。赤穂市の農家の方とさらに連携し、特産物を使ったお菓子の開発を進め、赤穂の食文化について学び、伝統食の伝承や特産物の斬新な利用についてさらに研究していきたい。</p>

(別紙4)

## 事業実施報告書

事業名：上郡町コミュニティデザインプロジェクト

団体名：＜ 兵庫県立上郡高等学校 ＞

所在：赤穂郡上郡町大持207番1

代表：武田 由哉

目的	上郡町が抱える諸課題（観光産業の活用、少子高齢化、特産品の知名度など）に伴う地域経済の衰退に対し、地元の高校生が町内諸機関と連携してイベントや特産品開発を主として地域活性化の一助を担う。				
事業内容	・上郡町をPRするための動画作成や上郡町の資源を生かしたビジネスプランを考え、発信する。 ・町内で生産されるイチジクの市場に出ない部分を用いて、ドライフルーツ化し、ネットでの販売促進につなげる。				
地域	赤穂郡上郡町				
事業の効果	・高校生の目で見えた地域の活性化について、将来構想を発信することで、町の関係機関、商業施設や産業への活性化の原動力となる。また、高校生自身は、この取組で自己有用感を味わえ、課題解決能力も身につく。さらに、今後各自が自分のふるさについて考え、行動する姿勢を身につけることができる。				
事業経過		場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
	5月～12月	上郡町内 上郡町内飲食店 白旗城	上郡町内観光案内スライドの作製	10名	2名
	5月～12月	上郡高校	議会だよりのモニター意見の作成	10名	2名
	5月～12月	上郡高校	活性化プランの作成	22名	2名
	9月～12月	上郡駅前	上郡イルミネーションの作製	10名	2名
	12月	上郡町生涯学習支援センター	ぐんぐんフェスタかみごおり	8名	2名



**【広報】**

白旗城まつり（11月23日）

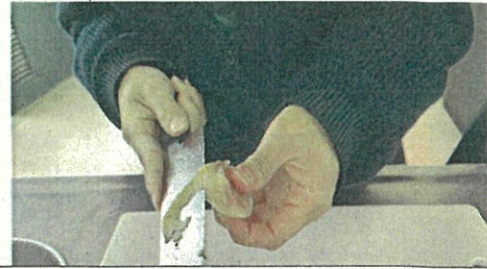
上郡町赤松地区で実施された白旗城まつりに甲冑隊として、行脚と智頭線のイベントに参加しました。この他、上郡町のまつりを調べて、まとめました。



**【商品開発】**

ドライイチジク（6月～12月）

上郡町で生産されているイチジクの規格外のものを利用し、ドライフルーツ化を計画している。今年度は、昨年度からの引継ぎである、色味の調整に試行錯誤した。今後は、色味だけではなく、乾燥後の大きさ、形などの課題解決に取り組みたい。



**【健康福祉】**

ぐんぐんフェスタかみごおり  
（12月2日）

コロナ以前は、「商工まつり」のお手伝いとして参加させていただいていました。今年から名称と場所も変更され、新たな形で生まれ変わったまつりに、イベントブースとして参加させていただきました。小さなお子さまから、年配の方まで足を運んでくださり、防災知識の教室や、本校の農業科ともコラボし、農産物等の販売もさせていただきました。



**【都市デザイン】**

駅前イルミネーション

（12月15日～1月13日）

今年で5回目の参加になります。今年、「トイストーリー」のキャラクターをイメージして、観光案内所の壁面に飾らせていただきました。併せて、ダンス教室やミニクリスマスツリー作り教室なども開き、他のブースの方々とも交流を深めることができました。



※掲載写真には、それぞれ日付と内容を付記してください。

協働の相手方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上郡町商工会</li> <li>・上郡町産業振興課</li> <li>・上郡町健康福祉課</li> <li>・日本政策金融公庫神戸創業支援センター</li> </ul>
今後の展望	<p>① 広報セクションにおいては、今後も議会モニターの原稿作成を引き受け、さらには町内の企業やイベントの発信を積極的に行い、高校生の力で町を活気付けたい。</p> <p>② 商品開発セクションにおいては、昨年度からの取組であるドライフルーツ化の継続と、ジャムなどの販路開拓に取り組んでいく必要がある。</p> <p>③ 健康福祉セクションにおいては、ぐんぐんフェスタかみごおりへの参加を継続し、本校農業科ともコラボし、農産物の販売や地域の方々との交流の場を確保したい。</p> <p>④ 上郡駅前イルミネーションの製作も、本年度で5回目になった。今回は、ダンス教室やミニクリスマスツリー作り教室など、生徒が得意な分野での参加ができたので、来年度も生徒の特性が生かせる教室を実施したい。</p> <p>⑤ 都市デザインセクションにおいては、ビジネスプランコンテストに応募したアイデアが集まってきたので、今後はそれをブラッシュアップしたものを引き継いでいきたい。</p>

(別紙4)

## 事業実施報告書

事業名：さようみらい活性化プロジェクト

団体名：< 兵庫県立佐用高等学校家政科 >

所在：佐用郡佐用町佐用260

代表：大塚 幹典

目的	<p>高校生のパワーで佐用町のきずなを深める！ 教科「家庭」の各分野について学習したことを地域の中で実践し、地域活性化を目指す。</p> <p>①ファッションショーや衣装製作を通して地域の多世代の人々が交流できる機会を作り、高校生が幅広い年齢層の中心となって活動し、地域社会の活性化に貢献する。</p> <p>②佐用町と佐用高校家政科の研究活動を紹介するイベントやワークショップを企画し、佐用町内外の方々に佐用の魅力を発信する。</p> <p>③佐用町の特産品や伝統産業「皆田和紙」を用いた衣装や小物製作に取り組み、佐用高校オリジナルブランド「S. homic」の販売活動を行うことで佐用町のPR活動につなげるとともに地域の特産品、伝統産業の可能性を探り、生徒の様々な力を育む。</p>
事業内容	<p>上記の目的を達成するために、以下の活動を実施した。</p> <p>①多世代交流型ファッションショー</p> <p>②イベント企画</p> <p>③特産品、伝統産業の発信</p>
地域	佐用町
事業の効果	<p>①多世代交流型ファッションショー 佐用小学校、佐用中学校、佐用日本語学校の児童生徒および学生、社会福祉施設の施設利用者の方々に衣装を製作し、さよう芸能発表会で「sayo collection2024」と題したファッションショーで共演した。モデル依頼、採寸、デザイン調査、衣装製作などの事前交流を行い、生徒自身が計画を立てて実行した。ファッションショーを軸に、様々な世代と交流を深めて地域イベントを盛り上げ、地域貢献活動に繋げることができた。</p> <p>②イベント企画 味わいの里三日月で「高校生レストラン2024 in三日月」を実施し、生徒の研究発表の場を作ることができた。イベントには町内外から約30名に会場いただき、家政科の取組や佐用町の良さを発信することができた。佐用の特産品や伝統産業の発信を継続することによって、周囲からの関心や期待も高まっている。また、防災とファッションを関連付けた減災ワークショップを企画し、佐用小学校でキャンディー・レイ作りのイベントを実施した。イベントを一から企画することで、生徒自身に大きな達成感があり、企画力やコミュニケーション能力の向上にも繋がった。</p> <p>③特産品・伝統産業の発信 佐用町の伝統産業である皆田和紙を使った衣装製作と商品開発に取り組み、イベントで発表・展示・販売活動を行った。商品開発では、オリジナルブランド「S. homic」を継続し、皆田和紙を使ったキーホルダーを製作した。町内の収穫祭で商品販売を行い、PR活動できた。また、コンテスト応募にも積極的に取り組み、全国高校生ファッションデザインコンテストに入賞した。</p> <p>これらの活動は、生徒の企画力・実践力を育むと共に、地域の方や継承活動を行っている方と交流することで地域理解が深まり、地域に愛着を持つことができた。</p>

事業経過	日程	①多世代交流型ファッションショー	②イベント・講習会企画	③特産品・伝統産業の発信
	5月	衣装づくり	準備(展示物)	皆田和紙を用いた衣装デザイン
	6月	デザイン検討	16日佐用高校文化祭にて「Sayo high school fair」実施(スタッフ8名)	デザイン検討、試作 各種コンテスト応募
	7月			作品製作
	8月			
	9月	佐用高校にて採寸、交流(日本語学校2名、日本語学校教員2名、生徒5名) 小学校・中学校・福祉施設にて採寸、交流(小学生モデル2名、中学生モデル2名、施設利用者2名、職員・教員6名) 衣装製作		衣装、小物製作
	10月	衣装製作、ウォーキング練習 小学校・中学校・社会福祉施設訪問各2回 リハーサル(出演者全員参加)		衣装、小物製作 各種コンテスト応募
	11月	さよう芸能発表会@さよう文化情報センター「sayo collection2024」実施(生徒31名、小学生モデル2名、保護者2名、中学生モデル2名、日本語学校モデル2名、施設利用者モデル2名)	高校生レストラン@味わいの里 三日月にて展示活動(生徒32名、お客様約30名) 減災ワークショップ@佐用小学校(生徒9名、小学生43名)	さよう芸能発表会@さよう文化情報センターファッションショーで衣装披露 兵庫県高等学校総合文化祭@神戸ハーバーランドスペースシアターにてファッションショー 三日月収穫祭@味わいの里三日月にて商品販売
	12月			
	1月			コンテスト衣装製作
	2月			全国高校生ファッションデザインコンテスト最終審査@神戸朝日ホール

(1) 多世代交流型ファッションショー

		
採寸 (9月20日@佐用中学校)	試着 (10月23日@佐用小学校)	Sayo collection2024① (11月3日@さよう文化情報センター)
		
Sayo collection2024② (11月3日@さよう文化情報センター)	Sayo collection2024③	Sayo collection2024④

(2) イベント企画

		
高校生レストラン① (11月20日@味わいの里三日月)	高校生レストラン②	キャンディー・レイ作り (11月28日@佐用小学校)

(3) 特産品・伝統産業の発信

		
皆田和紙衣装	皆田和紙衣装展示 (11月16日@神戸ハーバーランド)	ファッションショー (11月16日@神戸ハーバーランド)

※掲載写真には、それぞれ日付と内容を付記してください。

協働の相手方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 皆田和紙保存会</li> <li>・ 社会福祉法人佐用福祉会いちょう園</li> <li>・ 社会福祉法人くすのき会播磨園</li> <li>・ 佐用小学校</li> <li>・ 佐用中学校</li> <li>・ 佐用日本語学校</li> <li>・ 朝陽が丘荘</li> <li>・ 元気工房さよう</li> </ul>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ファッションショーにより一層工夫を凝らして地域と協働で作り上げる</li> <li>・ イベントに参加し、皆田和紙や佐用高校の取組を発信することでPR活動を行っていく。</li> <li>・ オリジナルブランド「S.homic」の定着を図るため、開発した商品の作り方を記録に残し、改善や新商品の開発につなげる。</li> </ul>

(別紙4)

## 事業実施報告書

事業名： 山高が地域を元気にするⅢ

団体名： < 兵庫県立山崎高等学校 >

所在： 宍粟市山崎町加生 340

代表： 塚本 師 仁

目的	少子高齢化が進む現在、宍粟市においても例外ではない。また高齢者の一人世帯も増加し昔に比べ地域の力が衰えている。そのため、田畑およびそのあぜ道の刈払も高齢者世帯においては困難な状況である。また、高齢者世帯が増えており、孤独な高齢者を増やさないための支援が必要である。				
事業内容	本校の専門学科(森と食科)、生徒会でプロジェクトチームを結成し、協働の相手方と連絡をとりながら「山高街の駅」をイオン山崎店や加生公民館で実施し、その時に作成した焼き菓子等を独居老人宅へ訪問配付を行う。刈払に関しては、需要のある地域を事前に調査し、本校で刈払の講習を受けた生徒をその地域へ派遣し、草刈りを行う。防災体験活動では、加生地区自治会とかしわの保育所と協力し、炊き出し体験や段ボールベッドの作成等に取り組み、防災意識の高揚を高める。				
地域	山崎町加生地区、下牧谷地区他				
事業の効果	地域の弱体化、高齢者世帯が多い集落の増加により、元気のなくなりつつある宍粟市を活気付け生徒の自尊感情も高め、他者だけでなく、自分も大切にできる生徒の育成ができる。ひいては生徒たちが宍粟市に残り、また再び元気な宍粟市を作り上げてくれる。				
事業経過		場 所	事 業 内 容	参加者数	スタッフ数
	令和6年 7月5日(金)	山崎高校周辺 (加生、市場、高下、門前、鹿沢)	本校職員の下、3年生の生徒が通学路を中心にゴミ拾いを行った。	157	14
	令和6年 11月10日(日)	宍粟市山崎町 下牧谷の休耕田	本校職員、地域の方々の指導の下、参加生徒6名に対し刈払機の使用法と注意点について指導をし、休耕田の草刈りを実施。	9	3
	令和6年 12月11日(水)	山崎高校周辺 (加生、市場、高下、門前、鹿沢)	本校職員の下、2年生の生徒が通学路を中心にゴミ拾いを行った。	165	14
	令和6年 12月17日(火)	山崎高校	本校にて防災体験活動を実施。消防署員の指導の下、AED体験、土嚢づくり、ロープワークを行った。また、生徒会役員を中心に大鍋を使った炊き出しを行い、参加者に試食をしていただいた。	514	52
	令和7年 1月31日(金)	加生地区	カップケーキ等の焼き菓子を作成し、避難支援者世帯に届け、健康状態などを確認する。	10	9



令和6年7月5日(金)  
高校周辺(加生地区)の通学路清掃



令和6年11月10日(日)  
下牧谷地区の休耕田の草刈り



令和6年12月17日(火)  
防災体験活動 かしわの保育所の園児と段ボールベッド作り



令和7年1月31日(金)  
加生地区の避難支援者宅への焼き菓子配付

※掲載写真には、それぞれ日付と内容を付記してください。

協働の相手方	加生地区自治会 下牧谷自治会 かしわの保育所
今後の展望	少子高齢化が進む宍粟市内において、これからも学校全体で、様々なアイデアを出し合い、地域の方々を元気づけながら、地域に貢献できる事業を考えていきたい。また、防災体験活動で、生徒会役員中心に炊き出しができたり段ボールベッドを作成したりクイズをしたりすることが出来たので、これをさらに広げていきたい。さらに、近年の温暖化により積雪がほとんどないが、降雪作業の経験のない生徒にとって近隣の方々との連携により降雪作業の手伝い等ができればと考えている。

(別紙4)

## 事業実施報告書

事業名： 伊和高生 発酵のふるさとPR事業

団体名： < 兵庫県立伊和高等学校 >

所在：兵庫県宍粟市一宮町安積 616-2

代表：増田 百代

目的	<p>宍粟市一宮・波賀地域では、住民の高齢化が進むとともに児童数も急激に減少し、小学校の統廃合が進められている。校区の拡大により、学校と地域とのつながりに変化が生じている。地域社会においては、核家族化や多様なライフスタイルの進展により、地域への愛着や連帯意識が希薄になると懸念されている。</p> <p>本校生徒が地域の伝統や文化、産業に触れる機会を増やし、地域の活動等に参加し、地域住民や地元企業、商工会・自治会と連携し交流することで、地域の一員としての意識を高め、地域の活性化に貢献する人材育成を図る。</p>				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宍粟の歴史と発酵、地域課題について学ぶ。</li> <li>・発酵食品と宍粟特産物を用いた菓子類の商品開発。</li> <li>・日本調理製菓専門学校に指導してもらいながらの調理実習。</li> <li>・道の駅みなみ波賀への商品開発アイデア提案。</li> <li>・宍粟の魅力をPRし、ふるさと活性化に貢献。</li> <li>・道の駅みなみ波賀での販売実習。</li> </ul>				
地域	宍粟市				
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさとの伝統や文化、地域課題の解決に向けて関心が高まった。</li> <li>・ふるさと貢献の意識が醸成された。</li> <li>・地域の担い手としての意識が高まった。</li> <li>・関係機関と連携し、社会に繋がる実学を展開できた。</li> <li>・地域全体で本校生徒を育てる契機となった。</li> <li>・宍粟の魅力のPRとふるさと活性化に貢献できた。</li> </ul>				
		場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
事業経過	R6. 5. 2	本校 1-1 教室	発酵と宍粟市の魅力発掘	21	3
	R6. 5. 7	本校 1-1 教室	商品開発 (アイデア出し)	21	4
	R6. 5. 28	本校社会科室	調理にあたって日本調理専門学校に ZOOM を用いて相談	21	4
	R6. 6. 20	本校調理室	お土産商品調理実習	21	3
	R6. 6. 21	道の駅みなみ波賀	商品開発の提案と販売実習依頼	5	3
	R6. 7. 16	本校 1-1 教室	商品開発講座(パッケージ案)	21	4
	R6. 9. 12	本校調理室	宍粟バーガー調理実習	20	6
	R6. 9. 18	本校 1-1 教室	プレゼン発表講座(資料作成)	20	4
	R6. 10. 3	本校調理室	試作品試食・ローカルTV取材	20	6
	R6. 10. 15	本校社会科室	マナー・接遇講座	20	4
	R6. 11. 4	道の駅みなみ波賀	商品開発したものを販売実習	20	4
	R6. 11. 28	本校音楽室	命の授業(獣害とジビエ活用)	20	4
	R6. 12. 12	本校 1-1 教室	プレゼン発表講座(発表練習)	20	4



開発した商品について

ネーミング	内容・特徴	販売実習結果
発酵戦米s	波賀味噌・山椒醤油の煎餅	好評で完売。道の駅の定番商品に!?
伊和ばあちゃん のクッキー	山椒・揖保乃糸のクッキー 田んぼと稲をイメージ	少し硬い。 隠し味の山椒が効いていた。
Lake ラスク	波賀味噌のラスク	味噌とラスクの組み合わせが好評。
宍粟バーガー	鹿肉・宍粟牛脂のパーティ 波賀味噌トマトソース りんごマヨタルタルソース 宍粟3尺きゅうりのピクルス	宍粟の特産物と発酵の要素がふんだんに取り入れられていて好評。 ただし、値段が高いと若干不評。

R6. 6. 20 お土産商品調理実習



R6. 6. 21 商品開発の提案と  
販売実習依頼



R6. 11. 4 道の駅販売実習



R6. 11. 4 販売実習の販売品



協働の相手方

- ・流通科学大学
- ・日本調理製菓専門学校
- ・道の駅みなみ波賀
- ・(有)グレイスプランニング
- ・地元の猟師

今後の展望

地元企業等と連携し、常時販売され地元に貢献できる商品の開発  
ふるさと活性化に向けた地元と協働したイベント実施  
インスタグラムなどを用いた、地元の魅力 PR 活動  
授業時の体験活動(実学)の深化

## 事業実施報告書

事業名： ちくさ地域力UPプロジェクト

団体名： &lt; 兵庫県立千種高等学校 &gt;

所在：〒671-3201 宍粟市千種町千草 727-2

代表：校長 菊川 泰

目的	<p>本校の所在地である宍粟市千種町は人口減少と少子高齢化が進行し、町内の小・中学校の児童生徒数も年々減少している。また、町内の商店街ではシャッターを下ろす商店が増えている。行政、商工会、自治会等がそれぞれ主体となって街の活性化に向け、様々なイベント等の取組みを行っており、それらを有機的に結びつける協議会も活動している。</p> <p>そこで、本校生がそれらと連携して行事等に参加し、地域の活力として寄与することで地域力UPにつなげることを目的として「地域交流」大切にしてきた。これら双方の取組みの融合により、本校の魅力ある教育活動の定着と千種町の発展に繋がることをめざす。</p>				
事業内容(主なもの)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元事業所と連携した就業体験</li> <li>・ 自治体主催行事における和太鼓の演奏</li> <li>・ 地元事業所、地域住民や小中学生と連携した特別栽培米づくりと活用</li> <li>・ 地域団体と連携した千種川の水生生物および水温調査を実施</li> <li>・ クリンソウの環境保全に向けた研究発表</li> <li>・ 地域行事におけるライフル競技の展示・体験、生徒会によるカフェ運営</li> <li>・ 商業施設における米の販売</li> <li>・ 園小中高ふれあい文化祭の実施</li> </ul>				
地域	宍粟市、尼崎市				
事業の効果	<p>本事業の取り組みの一つである「お米づくり」で収穫したお米は、惜しくも賞を逃したが、米の栽培法及び栽培時期の検討等を進めるなど、計画的な事業を展開できるようになった。栽培した米を給食センターに寄贈し食育に活用したり、米粉を用いたスイーツの研究を通して、米の栽培、調理加工、製品販売を含む6次産業化の取組を進めた。そのことにより、より多くの地域人材および地域資源が活用できた。</p> <p>また、地域の事業所と連携した様々な就業体験を実施し、地元自治体、商工会、協議会等が主催する活動やイベント等に参加した。特に現在の在籍生徒が小学生時に経験している小学校との合同環境調査は、今年度で9回の実績となる。地域の子は地域で育てるという好循環ができており、生徒の自己有用感の醸成につながっている。</p>				
事業経過(主なもの)		場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
	5月24日	学校前圃場	小中高合同田植え	約80人	約10人
	7月下旬	市内事業所	就業体験	19人	5人
	7月27日	千種小学校	妙見夏祭り	約1000人	10人
	8月4日	千種川全域	千種川水温調査	約80人	5人
	9月27日	学校前圃場	小中高合同稲刈り	約80人	15人
	9月7日	町内千種川	千種川水生生物調査	約70人	5人
	9日10日	エーガイヤ前	小高合同水生生物調査	約40人	5人
	10月20日	千種町商店街	千種ふれあいフェスタ	約1000人	10人

	11月16日	商業教育フェア	お米の販売実習	約1000人	10人
	1月25日	道の駅、商店街	お米の販売実習	約300人	25人



5月24日 小中高合同田植え



7月26日 就業体験



9月10日 小高合同水生生物調査



11月16日 お米の販売実習

※掲載写真には、それぞれ日付と内容を付記してください。

協働の相手方	<p>【就業体験】 ちくさ杉の子こども園、宍粟市役所、宍粟市消防本部、千草カントリークラブ、エーガイヤちくさ、木いちご、虎猫編集室、ニチフレ千草、ハチ食品</p> <p>【米作りと活用】 地域農業指導者、地域住民、ちくさ学校給食センター、JAハリマ、道の駅南波賀、道の駅一宮、ちくさええとこセンター、尼崎Qsモール、神戸新聞社</p> <p>【環境調査】 千種川を守る会、千種小学校、千種中学校</p>
今後の展望	<p>地域の協力体制や園小中高連携事業を軸とし、今後も高校生が地域住民と一緒にあって千種町内だけでなく宍粟市全体を盛り上げていけるよう活動を継続させたい。収穫した米の活用方法等について検討し新たな実践を行い、千種町（宍粟市）のお米のブランド力を向上させたい。特に今年度挑戦した、栽培した米を用いたスイーツの研究を通して、米の栽培、調理加工、製品販売を含む6次産業化の取組を、今後は地域の方々や町内のこども園・小中学校とともに進めていきたい。今後も就業体験含め地域とともに教育活動を進めていきたい。</p>

(別紙4)

## 事業実施報告書

事業名：地域の自然と文化の魅力の再発見と脱炭素社会推進事業

団体名：＜ 兵庫県立龍野北高等学校 ＞

所在：たつの市新宮町芝田 125-2

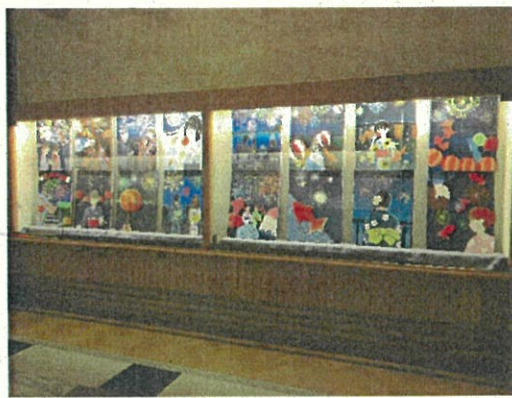
代表：松浦 弘幹

目的	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域内に存在する魅力的な自然と文化などの観光資源をPRするポスターを制作し、様々な地域活動の際に展示することによって、地域の方々や観光客の方に観光資源の再発見を促し、地域の活性化に貢献する。</li><li>・脱炭素社会推進のための啓発ポスターを制作・展示を行い、広く環境負荷の低減に向けた環境保全のための意識づけを行う。</li></ul>				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・夏の花火大会・秋の文化祭に対象を絞り、それらに関するポスターを手描きで制作する。</li><li>・制作した作品を、西播磨総合リハビリテーションセンター内の作品展示用ギャラリーに約1か月間展示する。</li><li>・脱炭素社会推進に向けた啓発ポスターを龍野北高校総合デザイン科の生徒が制作し、生徒たち自身の意識づくりのきっかけとする。</li><li>・本校の文化祭、たつの市景観形成地区内で行っている町ちゅう美術館で作品を展示する。</li></ul>				
地域	たつの市				
事業の効果	<ol style="list-style-type: none"><li>1) 夏の花火大会・秋の文化祭のポスターを制作し、西播磨総合リハビリテーションセンターと町ちゅう美術館で展示することで、地域の魅力をPRすることができた。</li><li>2) 脱炭素社会推進に向けた啓発ポスターを制作することによって生徒たち自身の意識づくりができた。また、文化祭と町ちゅう美術館で展示することにより、観覧者の意識づけにつながった。</li></ol>				
事業経		場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
	5月～7月	本校実習室	各ポスターの制作	40	
	8月	西播磨総合リハビリテーションセンター	脱炭素社会推進に向けた啓発ポスター案の作成	10	
	9月～10月	本校実習室	各ポスターの展示	20	
	11月	本校実習室	脱炭素社会推進に向けた啓発ポスター案の検討と改良	20	
	11月	本校文化祭	脱炭素社会推進に向けた啓発ポスター制作	40	
	2月	町ちゅう美術館	各ポスターの展示	120	

脱炭素社会推進に向けた啓発ポスター制作（6月）



西播磨リハビリテーションセンターでの展示（8月）



龍野北高校文化祭での展示（11月）



町ちゅう美術館での展示（2月）



協働の相手方	西はりまりハビリテーションセンター
今後の展望	<p>今後も西播磨リハビリテーションセンターでの展示の機会をいただくことで、地域の魅力及び本校生徒作品のPRを続けていく予定である。</p> <p>脱炭素社会を推進するためには、個人の意識づくりが必要であるため、生徒の課題内容を見直し、生徒の意識づくりを行っていきたい。</p>



写真



5月25日 店舗運営

写真



6月25日 店舗販売の商品作製

写真



11月16日 商業教育フェア

写真



11月16日 たつのオータムフェスティバル

※掲載写真には、それぞれ日付と内容を付記してください。

協働の相手方

兵庫県立龍野北高等学校総合デザイン科  
 兵庫県立龍野北高等学校総合福祉科  
 兵庫県立龍野北高等学校環境建設科  
 兵庫県立相生産業高等学校  
 兵庫県立上郡高等学校  
 兵庫県立香住高等学校  
 兵庫県立播磨特別支援学校  
 兵庫県立社高等学校  
 兵庫県立松陽高等学校  
 兵庫県立長田商業高等学校  
 龍野ライオンズクラブ  
 たつの市下川原商店街

今後の展望

- ・「課題研究」を受講する3年生を中心に定時制の生徒全員で「高校生の店 龍北工房」の運営を行うことによって、校内の活性化を促す。
- ・たつのレザーを使用した商品を開発、作製、販売を行うことによって、龍野の地場産業の発展に寄与する。
- ・店舗所在地のたつの市下川原地区と協働し、地域に貢献する。
- ・新商品の開発を行い、地域だけでなく近隣高校との交流を増やす。



## 事業実施報告書

事業名：地域をつなぐ相産定時制

団体名：＜兵庫県立相産産業高等学校 定時制課程＞

所在：相生市千尋町10番50号

代表：校長 魚住 啓明

目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>ものづくりを通じた交流の機会を増やすことで、人口が減少傾向にある地域と学校とのつながりをより強固にする。</li> <li>工業科目を学ぶ生徒の技術を活かしたものづくりを通して地域に貢献する。</li> </ul>				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校が実施する学校行事（陶芸教室・課題研究成果発表会）を地域住民も参加できる内容で実施した。</li> <li>ものづくりの楽しさを実感してもらう子ども向け「工作教室」を計画した。</li> <li>安全標識は、飛び出し坊やに加え、バリエーションを増やして製作し、相生市危機管理課と連携し、設置区域を拡大できた。</li> </ul>				
地域	相生市 相生市千尋町自治会				
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校が実施する学校行事にも地域住民に参加してもらい、また生徒が地域の行事（相生市もみじまつりなど）で工作教室をすることで、地域住民と生徒・教職員との交流の機会が増え、学校と地域、さらに住民同士のつながりも深まった。</li> <li>千尋町連合自治会と備前焼陶芸教室を実施し、さらに交流を深めることができた。</li> <li>生徒の活動や製作物が地域に役立つとともに、生徒が達成感を得ることができた。</li> </ul>				
事業経過		場 所	事 業 内 容	参加者数	スタッフ数
	5月	相産産業高校	・千尋町自治会役員との連絡、意見交換（今年度の計画など）	4	4
	6月・7月	相産産業高校	・安全標識の製作	60	38
	7月16日		・こども工作教室の準備		
	9月3日		・地域清掃活動（千尋町） ・防災教育出前講座の開催		
	10月3・4日	相産産業高校	・備前焼陶芸教室（地域住民と備前焼の陶芸教室の実施）	15	15
	11月10日	相生市もみじまつり会場	・2024 羅漢の里もみじまつり	100	15
	11月23日	ひょうご工業教育フェア会場	・ひょうご工業教育フェア 来場者対象のこども工作教室の実施（製作数70）	50	8
1月21日	相産産業高校	・地域に公開した課題研究成果発表会を実施（1年間の取組を発表、意見交換）	60	38	
2月21日	相生市役所 相生市千尋町自治会	・安全標識を相生市危機管理課 および学校近隣の千尋町自治会に寄贈、設置（予定）	8	4	

写真 令和6年5月～令和7年2月  
安全標識製作、相生市へ寄贈・設置



写真 令和6年9月4日  
防災教育出前講座の開催



写真 令和6年10月3日・4日  
備前焼陶芸教室で地域住民と交流



写真 令和6年11月10日  
(工作教室①：もみじまつり)



写真 令和6年11月23日  
(工作教室②：ひょうご工業教育フェア)



写真 令和7年1月21日  
地域に公開した課題研究成果発表会



協働の相手方	相生市千尋町連合自治会 相生市
今後の展望	相生市「2024 羅漢の里もみじまつり」では、工作教室が来場者に好評であった。 安全標識は、バリエーションを増やして製作した。相生市役所危機管理課を通して、近隣の自治会へ寄贈し、有効活用してもらうことになった。 工業科目を学ぶ本校生が技術を活かしたものづくりで地域に貢献することで、学校と地域のつながりを大切にし、より一層、地域との交流や連携をしていきたい。

(別紙4)

## 事業実施報告書

事業名： 未来の環境へ繋ぐ「西播磨のいきもの大調査」

団体名： <兵庫県立大学附属高等学校 自然科学部>

所在： 赤穂郡上郡町光都3丁目11番1号

代表： 泉村 靖治

目的	西播磨の海や山の自然環境への関心を高め、生物資源を調査・活用する。。子供向けイベントを行うことで、地球温暖化等の環境問題や生き物への関心を高め、地域社会とのつながりを深め、豊かな自然環境を保全するための活動を行う。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絶滅危惧種の、継続的な観察や調査</li> <li>・希少植物の保全、特に学校敷地内での保全・生物を観察し、主にスマートフォンを使って記録する。</li> <li>・資源として利用できる生物を発見し、いきもののかかわる課題を明らかにする。</li> <li>・野菜を育て、一部は本校文化祭で販売する。シカの食害を調べる。カメムシによる野菜などの作物の被害を減らす研究を行う。</li> <li>・ビーチクリーンなどの、高校生がボランティア活動する場を作る。</li> <li>・プラスチックゴミを使ってアクセサリを作り、販売する。</li> <li>・「プラスチックの粉碎」と「溶かして形作る」機械を自作する。</li> <li>・イベントでワークショップを行い、子供向け環境教育を行うことで、本校自然科学部の探究的な活動を地域へ還元し、学校と地域社会とのつながりを深める。</li> <li>・啓発活動のための教材や標本の作製</li> <li>・小学生対象にイベントや紙芝居を利用した環境教育授業を行う。</li> <li>・高校生の主体的な活動によって、取り組むことが重要で、校内で仲間を集める。</li> </ul>				
地域	光都を中心とした西播磨地方				
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山から海への繋がりを身近に感じることで西播磨ならではの環境教育を行うことにより、環境を守ることの大切さを知ることができた。</li> <li>・自然と触れ合う機会を設けることで、自然環境に関わる問題について考える力がついた。</li> <li>・中高生の時期から社会課題について考える機会を設けることで、将来もっと大きな課題に取り組む力がつく。</li> <li>・子供に近い世代が良きロールモデルとなり、課外活動をイメージしやすくすることで、課外活動に対する意欲を引き出した。</li> <li>・身近な行動から、地球温暖化問題など大きな課題の解決へつながる第一歩となるという意識を広められた。</li> <li>・環境にいいことをするのは当たり前、何もしていないなんてありえないという意識へと変えてゆく。</li> <li>・幼少期にこうした活動に参加した子供たちが、中高生になり活動の運営側へ参加し、また次の世代に継承していくシステムの構築を目指せる。</li> </ul>				
事業経過	時期	場所	事業内容	参加者数	スタッフ数
	4月～	光都周辺 兵庫県立大学 附属高等学校	光都周辺の生物調査 希少植物を含む植物の栽培 昆虫等の小動物の飼育		25 8

		採取した生物の利用法を考える (調理して食べる)		15
		昆虫や植物の標本作製		4
定期的 に実施	ファブラボ	海ゴミプラスチックを使ったア クセサリーの作成		5
5/4, 6/1	光都芝生広場	光都てくてくマーケット アクセサリー販売		4
5/10, 11	本校	文化祭 植物や昆虫等の展示・販売	300	12
5/11 5/25, 7/7	姫路科学館	企画展「むし・ムシ大集合」昆虫お 話会「実はこんな虫、カメムシ」		1
5/16~6/5	オプトピア	活動紹介等のポスター展示		
定期的 に実施	佐用町の小学校	小学校での環境教育授業		1~5
6/8 9/15 11月~2月	佐用町コバコ 佐用町 佐用町	ワークショップ、紙芝居 夏祭りワークショップ イベント出品と紙芝居		
7/20, 21	姫路科学館	科学の屋台村		
10/20	赤穂市御崎海岸	ビーチクリーン活動		5
10/26	光都芝生広場	西播磨フロンティア祭 アクセサリー販売 活動紹介ポスター展示		6
11/3	たつの市役所	たつの市民祭 環境ポスター展 活動紹介ポスター展示		
11/8~10	バンドー神戸 青少年科学館	兵庫県高等学校総合文化祭自然 科学部門発表会		5
12/21	先端科学技術 支援センター	西播磨ビジネスコンテスト Rable		2
12/22	姫路科学館	はりまユース研究発表交流会 ポスター発表		5



ビーチクリーン



紙芝居で環境教育



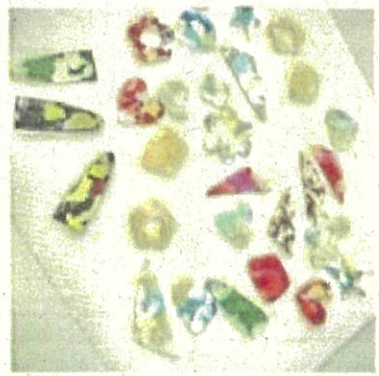
ワークショップ



プラスチックごみの展示



レジンを使つての加工



金具の取り付け



ハクビシン  
(トレイルカメラで撮影)



海ゴミを使ったアクセサリ



プラスチックの洗浄・粉碎



どんぐりパンケーキ



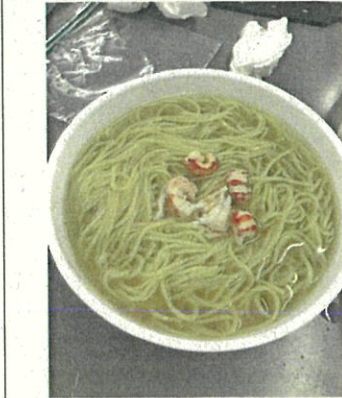
西播磨フロンティア祭



環境教育



アカミミガメのから揚げ



ザリガニラーメン



はりまユース研究発表交流会



シタベニハゴロモ成虫



シタベニハゴロモ幼虫

<p>協働の 相手方</p>	<p>姫路科学館 佐用町の小学校 佐用町 たつの市</p>
<p>今後の 展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な行動から、地球温暖化問題など大きな課題の解決へつながる第一歩となるという意識を広める。</li> <li>・環境にいいことをするのは当たり前という意識へと変えてゆく。</li> <li>・幼少期にこうした活動に参加した子供たちが、中高生になり活動の運営側へ参加し、また次の世代に継承していく。</li> <li>・西播磨の自然の中にどのような資源があるのかを見つけ、その利用法をさらに考えていきたい。</li> <li>・海ゴミを拾う活動、環境美化学習を行い、同時に材料を得ることができる。</li> <li>・イベントを開催することで、地域の人や子供たちの交流の場を作ることができる。</li> </ul>



令和6年度地域づくり活動応援事業（高校生枠）  
実績報告集

（令和7年2月現在）

発行 兵庫県西播磨県民局

〒678-1205 赤穂郡上郡町光都 2-25

TEL:0791-58-2124/FAX:0791-58-0523